

人間自然科学研究所 周藤彌兵衛翁像・ベルタ・フォン・ズットナー像のあゆみ

人間自然科学研究所のあゆみ目次（周藤彌兵衛とベルタ・フォン・ズットナー）

- 2002年9月 中国山東省棗荘市
台児荘大戦記念館 訪問・献花・寄附・銅像送出し除幕式を開催
- 2003年10月 鳥取県の中国庭園 燕趙園に孔子・孟子像建立
- 2010年7月 韓国語版「治水の偉人伝」漫画出版記念式典
- 2012年5月 平和のための国際博物館ネットワーク講演
- 2013年9月 世界の平和フィランソロピスト(事業家)20人 オランダ・ハーグ展
- 2014年6月 ベルタ・フォン・ズットナー女史没後100周年記念セレモニー
- 2014年8月 松江市八雲町日吉親水公園に周藤彌兵衛翁大銅像を仮設建立
- 2014年11月 八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム
ベルタ・フォン・ズットナー冊子制作
- 2014年11月 イングリッド・ロレマ氏 富山県高岡市訪問
- 2015年6月 ゆう科学通信発行
- 2015年8月 周藤彌兵衛翁像建立1周年記念 「水と火の祭」を開催
今人舎より著者村尾靖子氏の「日英対訳 悠久の河」を出版
- 2015年11月 全国伝統的工芸品フェスタ in 富山
- 2015年11月 八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウムを開催
- 2016年1月 スノードロップ活動
- 2016年2月 オランダより「岩より水」発行



[八雲立つ出雲動画](#)

[\[4分50秒\]](#)

この他にも様々な活動を行っております。
詳しくは人間自然科学研究所ホームページをご覧ください。

<http://www.hns.gr.jp/>

2002年9月6日 中国山東省棗荘市

台兒荘大戦記念館 訪問・献花・寄附・銅像送出し除幕式を開催

棗荘・台兒荘は、米国から最新兵器を提供された国民党と共産党の国共合作の地で、陸軍松江第六三連隊が全滅した場所。

当研究所はこの地で孔子、孟子、郷土の治水の偉人・周藤彌兵衛翁、清原太兵衛翁の4体の銅像を製作。中国山東省政府の絶大なる支援により中国側 3000名、日本側 40名の参加者のもと、日本への銅像出発式が挙行された。



小松昭夫、神埼邦子氏ほか日本 40名、中国山東省 3000名が参加し銅像出発式が行われた

2003年10月10日 鳥取県の中国庭園 燕趙園に孔子・孟子像建立

中国棗荘・台児荘で製作された孔子・孟子像は、鳥取県にある日本最大の中国庭園 燕趙園に寄贈。



2006年3月 西王母と八仙人像建立式



2007年3月 孫子像建立式

2010年7月19日 韓国語版「治水の偉人伝」漫画出版記念式典

「治水の偉人 周藤彌兵衛 清原太兵衛 大槻七兵衛」の韓国語版漫画の同時出版、ソウル支社の開所、韓国における門番Gシリーズの発表を合わせ、ソウル市内で記念式典を開催。150人参加。小松理事長に徐英勳大韓赤十字社元総裁（元KBS社長）から、赤十字社名誉章が贈られた。



2012年5月 平和のための国際博物館ネットワーク講演

オランダ・ハーグで開かれた、世界の戦争と平和の博物館が連携する「平和のための国際博物館ネットワーク」理事会で、小松昭夫理事長は招待を受けスピーチを行った。



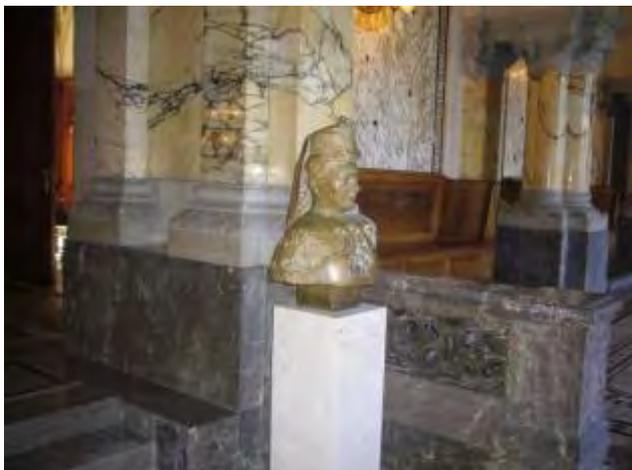
2013年9月 世界の平和フィランソロピスト(事業化)20人 オランダ・ハーグ展

カーネギーの寄付によって創設された「平和宮」(オランダ・ハーグ市、国際司法裁判所など国際機関が多数入っている)の100周年記念事業「世界の平和フィランソロピスト(事業家)20人」展に小松理事長が選ばれパネル展示された。

この開会式にあわせて、イングリッド・ロレマ氏が制作されたベルタ・フォン・ズットナー像の除幕式も行われ、ロレマ氏との縁が始まる。



オランダ・ハーグ市にてアンドリュー・カーネギーの資金によって建設された平和宮の100年祭に招待され出席。



2014年6月17～18日 ベルタ・フォン・ズットナー女史没後100周年記念セレモニー
世界初女性ノーベル平和賞受賞者のベルタ・フォン・ズットナー女史没後100周年の行事が、6月17日よりオーストリア・ウィーン市で開かれ、この式典に小松理事長を含め日本から11名が参加。式典の前夜祭では、人間自然科学研究所の平和構想を伝えるために、動画「出雲から陽が昇る」を放映、小松理事長によるスピーチを行い、イングリッド・ロレマ氏制作ベルタ・フォン・ズットナー2号像をウィーン平和博物館に6ヶ月間貸出しをする。



ベルタ・フォン・ズットナー女史没後100周年記念セレモニー写真資料ダウンロード

<http://www.hns.gr.jp/download/20140624europe.pdf>

ウィーン貸出中のズットナー像の様子

<http://www.hns.gr.jp/download/20140624vienna-suttner.pdf>



ベルタ・フォン・ズットナーは、2008年ヨーロッパ・ターラーというコレクターのための高額コインの図柄に選ばれました。

このコインの裏面には、彼女を含め、ヨーロッパ史上重要な人物が描かれています。またオーストリアの2ユーロ硬貨とオーストリア



の古い1000シリング札にも採用されていました。さらに、2005年発行のドイツの記念切手にも使われています。



2014年8月1日 松江市八雲町日吉親水公園に周藤彌兵衛翁大銅像を仮設建立
水循環基本法成立後初の「水の日」8月1日に島根県松江市八雲町の日吉親水公園に2002年に制作した彌兵衛翁のおよそ8倍の大銅像を仮設建立し、周藤彌兵衛顕彰会に寄贈。式典には200名あまりの方々にご出席いただき除幕及び贈呈式を行う。



周藤彌兵衛翁像建立写真資料ダウンロード

<http://www.hns.gr.jp/download/20140801yaheizoukonryu.pdf>

2014年11月23日 八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウムを開催

2013年にカーネギーの寄付によって創設された「平和宮」の100周年記念事業「世界の平和フィランソロピスト20人」展に小松理事長が選ばれパネル展示され、この開会式にあわせて、ベルタ・フォン・ズットナー女史の胸像が除幕された。

胸像制作者であるイングリッド・ロレマ氏と出会い、平和への想いに共に惹かれ、これを機に3号像を制作し日本で初めてお披露目となる。

イングリッド・ロレマ氏をオランダから迎え、他8名の講師とともに11月23日、松江市のくにびきメッセにてシンポジウムを開催。



八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム写真資料ダウンロード

<http://www.hns.gr.jp/download/20141123izumokarahiganoboru.pdf>

2014年11月23日 ベルタ・フォン・ズットナー冊子制作

八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム開催にあわせベルタ・フォン・ズットナーの小冊子を制作。



企画 / 小松 昭夫

編集 / 古浦 義己

翻訳 / 中村 新一郎

発行日 / 2014年11月23日

発行者 / 小松電機産業株式会社

発行所 / 小松電機産業株式会社、一般財団法人人間自然科学研究所

定 価 / ¥300- (税別)

PDF データダウンロード

<http://www.hns.gr.jp/e-books/pdf/bertha%20von%20suttner%20book.pdf>

2014年11月25日 イングリッド・ロレマ氏 富山県高岡市訪問

イングリッド・ロレマ氏が作るベルタ・フォン・ズットナー像の日本製を制作するにあたり、日本の銅器生産額90%以上を制作する富山県高岡市に視察訪問。



八雲志人館が立ち上がり毎週1回発行する「ゆう科学通信」がスタート

第1回は「一村一志」をテーマに書かれ、「夢の芽生える文化」創造のプラットホームとし

「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な地域を創出することをめざして活動。

悠・遊・友、そして意宇

「志」
リンク・メディア

ゆう科学通信

2015年4月16日発行

Vol.34
4
発行：八雲志人館
〒900-2102
鳥取県八雲市八雲町東町3442-9
電話：FAX 0852-5411023
E-mail: shijunaka@bc8.ocn.ne.jp

「夢の芽生える文化」
創造のプラットホーム。
「八雲志人館」は、
「価値創造地域」の
母体をめざして活動します。

世界の縁結びの地 出雲のルーツ

「日本人はどこから来たのか？」
海を越えた祖先

「人類は誕生から700万年前の歴史を持つ」と言われています。20万年前に、ホモ・サピエンスと呼ばれる現生人類が登場します。そして、5万年前、人類はアフリカから地球全体に広がったとされています。

本書の舞台は、5万年～1万年前の「後期旧石器時代」です。ヨーロッパで、アフリカから移ってきたクロマニヨン人といわれています。同じ時期にアジアへ広がった初期のホモ・サピエンスとどのような人々で、彼らはどのようなルーツで日本列島まで広がったのか。その土地でどのような生活を送り、どのような後期旧石器文化を生み出したか。これが本書のテーマです。

人類学者である著者は、遺跡から見つかった人骨化石の形態学、考古学、DNAの研究など異なる分野の成果を統合し、「遺跡証拠の厳密な解釈」に重きを置いて、新しいアジアの遷移地図を作り上げます。そこから浮かび上がってきたのが、人類がアフリカから日本列島に到達するまでの大

移動史の新しい学説でした。著者が10年に及ぶ研究の本に積み上げた新説は、次のように要約できます。

4万8000年前、アフリカを出た私たちの祖先ホモ・サピエンスは、西アジアからヒマラヤ山脈を南北に隔て、別れて北進、ひとつは、インドから東南アジアへ進んだ「南ルート」をたどります。もうひとつの「北ルート」は、北極圏にまで至ります。さらにモンゴルを経て、4万年前頃には中国、朝鮮半島など東アジアに到達。

1万年後、ヒマラヤ山脈を越えながら南北に別れたそれぞれの集団が東アジアで再会し、混じり合う——これが世界各地の遷移年代をマッピングすることで得られたナリオです。

そして、3万8000年前から、

日本へ対馬、沖縄、北海道の3ルートから別々に、初めて祖先が足を踏み入れたと、著者は主張します。

3ルートのうち最も早く日本に入ったのが対馬海峡を渡り九州北部へ至るルートで、最初の日本人は、航海者だったといえるのが、本書の重要なポイントです。



「古代倭王の正体」
海を越えてきた
覇者たちの興亡

先に紹介した「日本人はどこから来たのか？」が人類学者の著作であるのに対し、本書は文藝的著作です。中国や朝鮮半島の歴史書「資治通鑑」(中国)「三國志」(後漢書)、「三國志」(魏志)などからふんだんに引用されています。

本書の著者紹介に「小林重子(やすこ) 1936年生まれ。『記紀』を編纂する日本史学会と一線を描き、日本古代史をつねに国際的視野から見つめ、従来の定説を覆しつづける」とあります。この紹介文が示すように、本書にはまた、こと大膽な説が展開されています。帯の文面からして、過激です。

「倭王呼、神武、ヤマトタケル、応神、雄略、聖德太子……日本列島生まれは一人もいない!」

「まがき」にはこう記されています。列島の本来の住人は、南東アジアで紀元前の数千年間にわたって活躍した倭人の後裔であるが、紀元前後から、中国の王朝の変遷や侵略により、江南(長江の南)や西アジアまで広範囲にわたる渡来者があった。それが七世紀初頭の聖德太子「突厥可汗連頭」とつけかかんタルドウの時代まで続く。唐が建国すると列島も唐との攻防に終始し、半島とともに東アジアの「国」となり、やがて平安時代末から日本の中で内乱が終結し、日本人の世界に

を使った古代舟を復元し、厚那国島(西表島)、台湾(卑南島)プロジェクトに挑んでいます。プロジェクトのうち最も早いルートは北海道。2万8000年前、突如現れた特殊な石器(細石刃)を使った植刈器が、シベリアから南下してきた祖先がいたことを示しているといえます。

九州(本州)で、縄文の系譜を継ぐ在来系の人々との大規模な混血が混んでいった。

そして、著者はこう結びます。「偉大な旅を続けてきた旧石器時代の祖先たちの血は、今もこの列島の私たちの血の中に、様々なながら継承され続けている」

小林説によれば、天皇家のルーツは、西アジアの遊牧民、大月氏(だいげつし)であり、姓は「林(きん)」「やすみし」(「万葉集」では天皇にかかる姓詞「私はやすみし」とは「林氏」と書くのが妥当だ)と思う。林氏の下(し)は「大和しるるわ」というように強調の意味を持つ。したがって「やすみし大正」という意は、休氏である大正、という意味である。ないといわれる天皇の本姓は「林」だったのである。

また、第一部「第一章」の題は「奄美大島の那馬台は海洋貿易大國だった」とです。日本人はどこから来たのか?の沖繩ルーツを連想させます。

「あとがき」に、日本オリエント学会で半世紀にわたって、三笠宮崇仁親王殿下に何かと学問上のお世話をいただきました。常識外れの私説に対して、一度も疑義のお言葉をいただいたことはありません」とあります。

次に、沖縄、台湾から、全長1200kmにも及ぶ琉球列島を北上するルートです。台湾から列島最南端の与那国島に渡るには、フィリピン周辺から北上する。流速は速いところを横断20mに達するといふ黒潮を横断し、100kmをはるかに超える航海が必要だ。

ちなみに、著者は「その本当の困難さを知るには、航海の再現実験しかない」と、インターネットで資金を募り、章(アン)

古本州島(3万8000年前)に始まった後期旧石器時代は、1万6000年前頃に縄文時代が始まるまで2万年あまり続いた。縄文時代は1万3000年以上続いている。25000年前に始まる弥生時代を迎えます。縄文社会に、弥生渡来民が現れた。大陸から来た渡来者は莫大ではなかったようだが、彼らは平野部に水田を開発して列島内で人口を増やしたらしく、そして縄文時代以降、この渡来系集団の列島内拡散とともに、

対する視野はますます日本国内に限られるようになったのである。本書で私は、那馬台の史態を明らかにするとともに、七世紀に大陰から最後の為政者が渡来するまでの2000年足らずの間、世界を舞台にした後国の実像と興亡を明かしてゆく。

「古代倭王の正体」

「日本人はどこから来たのか?」

「日本人はどこから来たのか?」

（編集：文藝春秋 デザイン：イラスト：戸島貞）

国際的「縁結び」の象徴

―ベルタ・フォン・ズットナーの胸像

『古代陸王の正体』に描かれた「紀元前から6世紀末まで、ユーラシアを貫く壮大な古代史」から浮かび上がってくる、西アジア・中央アジア・中国・朝鮮半島・日本列島を股にかけた人々の旺盛な交流と、日本海を自在に往き来する航海者たちの果敢さには感嘆させられます。そして、日本海に流れ込む暖流・対馬海流の存在が目が向きます。日本人はどこから来たのか？には、対馬・沖縄・北海道の3つのルートが挙げられていましたが、対馬海流を横切って北九州に至るのではなく、そのまま海流に乗って、沿岸の出現、若狭、能登、そして新潟に着くルートが想定されます。



ベルタ・フォン・ズットナーの胸像

松江市八雲町を流れる意字川の畔には、水の仙人、周藤彌兵衛翁の銅像が建っています。これは、島根県の出雲川から東、鳥取県の天神川から西の地域の出身者で編成された、陸軍の松江63連隊に多数の戦没者が出た台児荘戦（たいじそう）の戦いの戦場となつた、中国山東省東部の劉成勳氏に制作された、中国山東省市莊（しやうそう）市は島根県飯南町出身の高田勳氏に依頼したものです。

ようにしてたどり着いた、大陸の先端技術を携えてきた人々も多かったのではないのでしょうか。そこには良質の砂鉄があり、燃料となる森林資源も豊富で、たたら製鉄の一大生産地となり、古代出雲王国が形成されていった。それが、国内外の多くの人々が海路や陸路を通じて集い、交わり、さらには様々な利害を調整する「縁結びの地」として知られるようになった。これが、今日まで伝わり、旧暦10月「神在月」の、八百万の神々による「縁結び」会議の由来なのではないでしょうか。

ちなみに、出雲市は昭和34年（1959年）、布野信忠市長の時に世界進歩平和都市を宣言。また「出雲芸術アカデミー」を設立している「音楽の街」としても国内外に知られています。

山東省は、孔子、孟子、孫子、墨子、諸葛孔明など日本でもよく知られた人物を輩出している地域です。人間自然科学研究所は、進建市で彌兵衛翁のほかに孔子・孟子像も制作。山東省東營市から贈られた孫子像、研究所が杉原忠一氏、寺岡多佳氏の仲介で内海弘子氏が



ら寄贈を受けた中国伝説の女仙・西王母と八仙人（日本の七福神の想像が、鳥取県の片山善博知事・平井伸治知事の賛同を得て、孔子・孟子像と共に、鳥取県湯梨浜町の国内最大の中国式庭園・燕趙園（木田斉園長）に建立されています。そして、彌兵衛翁像をきっかけに、オランダ・ハーグで作られた女性初のノーベル平和賞受賞者ベルタ・フォン・ズットナーの胸像が寄贈されました。

ズットナーは反戦小説『武器を捨てよ』を著し、「空の野黄化」という論文で空爆による未曾有の悲惨さを警告。1914年6月21日に起こる第一次世界大戦が勃発したという経緯があります。



中国式庭園・燕趙園に西王母と八仙人像と共に並ぶ孔子、孟子、孫子像



2006年3月 西王母と八仙人像建立式

2014年12月、オーストリア・ウィーンで「核兵器の人道的影響」に関する国際会議が開催されました。その中心的役割を担ったのがオーストリア軍縮大使のアレクサンダー・クメント氏です。クメント氏はこれに先立つ8月6日、広島を訪問。2015年4月6日、国連本部で開かれたNPT核拡散防止条約（再検討会議）は、「国際法によって核兵器を持つこと自体を禁止し、廃絶するために世界は力を合わせるべきだ」という前例のない提案をしています。このような流れを背景に、4月10日、11日、被爆地・広島で「2016年G7外相会合」が開催されます。



タイ国のピシェット・ブトルン氏・ナルモン・ブトルン氏から贈られた八仙人像 (174cm x 103cm)

オランダから渡来したズットナーの銅像は、ウィーンを皮切りにして、あたかもトロイの木馬から飛び出したギリシャ兵のように、出雲の地を起点に、世界各地に広がろうとしています。国際的な「縁結び」を象徴する存在が、今、羽ばたきの時を迎えているのです。（交尾場 修）

（後記）「ゆう科学通信」は皆様からのご意見、情報を礎に発信していきます。ご投稿はメル、フックスでお願いいたします。

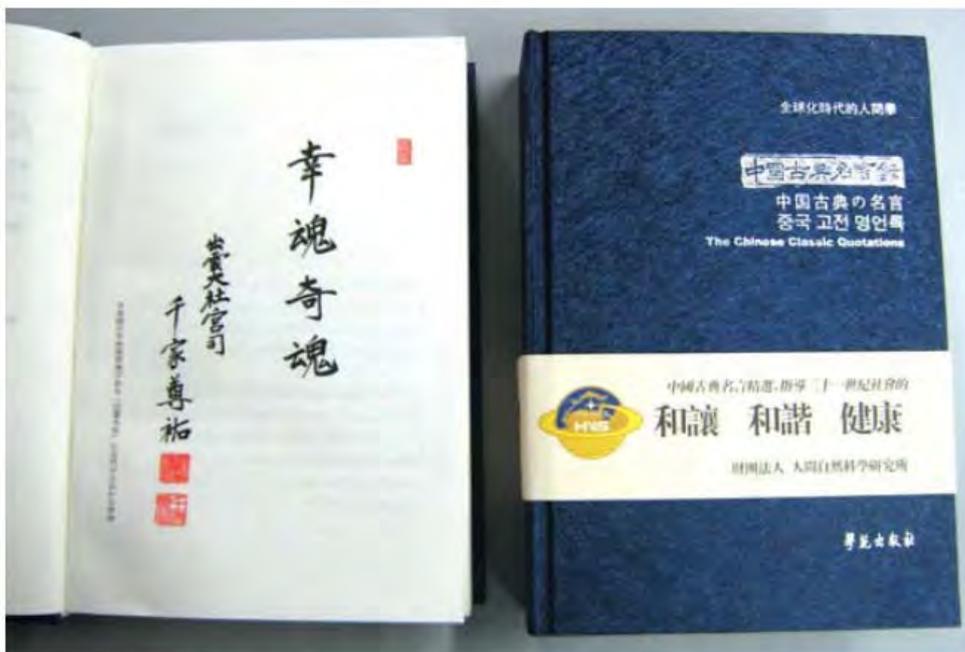
2016年4月4日現在

Vol.34 世界の縁結びの地「出雲」のルーツ

国際的「縁結び」の象徴

ゆう科学通信アーカイブス

<http://www.komatsuelec.co.jp/arc/arc-hnsfile.html>



財団法人人間自然科学研究所が2008年6月に刊行した
中日韓英の4カ国語で編纂された中国古典名言録

巻頭言

人類は、核拡散、温暖化、金融混乱、健康不安など地球規模の危機に直面し、「衰退か進化か」の分水嶺に立たされています。環境・健康という根源的問題に世界規模で取り組むためには、歴史の中で生まれた国家・民族間の怨念を昇華し、話し合いのできる強固な平和の基盤を創ることが必要です。

北東アジアには二十世紀の戦争の残滓が色濃く残っており、今も加害国と被害国の間では反感と不信が再生産され続けています。この地に縁のある人々の見識に、人類の未来が係かっているといても過言ではありません。

加害の歴史をもつ日本国と、国連常任理事国であり被害の歴史をもつ核大国の中華人民共和国から、被害の歴史をもつ大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国と、

国連常任理事国であり核大国の、アメリカ合衆国、ロシア連邦に呼びかけ、和讓、和諧の平和事業を興し、朝鮮半島と日本列島を世界恒久平和の発祥地にするときです。この事業が動き出せば、対立にあえぐ紛争地帯の国民に、勇気と希望をもたらすでしょう。

この名言集は、数千年にわたって引き継がれた人類の至宝である中国古典から、今日的課題の「平和・環境・健康」に関する名言を抜粋し、中日朝英の四ヶ国語で編纂いたしました。本書の発刊を契機に、飛躍的に発達した科学技術と情報通信網により、叡智の生まれる議論の輪が世界に広がり、「対立の文化」から「共生の文化」への止揚が始まることを願っています。

出版にあたり、学苑出版社と各国関係者のご尽力に対し、深甚なる感謝の意を表します。

財団法人 人間自然科学研究所

理事長 **小松 昭夫**

2009/2/12 [核大国の結節点にある朝鮮半島と日本列島](#)

2009/2/12 [国民国連構想を北京から問う 中国古典名言録出版記念フォーラム](#)

2015年8月1日 周藤彌兵衛翁像建立1周年記念「水と火の祭」開催

周藤彌兵衛翁像とその周りにオランダ・ハーグにてイングリッド・ロレマ氏が作ったベルタ・フォン・ズットナー像と富山県高岡市でロレマ氏制作の像を型にして作られた国産ベルタ・フォン・ズットナー像、オランダ・ハーグで作られた像（胸像）と国産像（台座部）を合わせたオランダと日本合作のベルタ・フォン・ズットナー像を並べ「水と火の祭」を開催。

悠久の河 意宇川
水と火と人の輪
水と火の祭
周藤彌兵衛翁像建立1周年記念
平成27年 **8月1日** 土
水の日
場所▶八雲町日吉親水公園
周藤彌兵衛翁銅像周辺
午後4時開場～午後8時

水の神様・火の神様
そして先人に感謝し、
平和を創る「水と火の祭」を開催します。

お茶席
水飴
かさ水
火起こし体験

- 神事
- 餅まき
- 古代笛演奏
- 紙芝居
- 朗読
- 小唄八雲の世界
- 語り
- 私の8月15日
- 火起こし体験

雨天の場合は、
平日吉ふれあい会館で、
午後3時開場～午後6時

主催▶八雲志人館
松江市八雲町東岩3442-9

協賛▶やくもまつり実行委員会・八雲ゆう人会
後援▶八雲公民館・まつえ南高工会八雲支部・日吉地区自治会連合会
鹿野天社・山陰ケーブルビジョン株式会社・小松電機産業株式会社



8/1 土 2日 日
午後8時～
松江水郷祭
湖上打上花火
松江水郷祭史上初の13000発！
1日3000発・2日10000発
宍道川の美しい湖面を生かした高110m最大級の
湖上花火大会として開催します。
宍道湖上の台船と曳舟から連続的に打ち上げます。
水玉連発など多彩な花火を次々に打ち上げます。

第16回
やくもまつり
おいでな祭
13:00～21:30 とろろ八雲博覧館改修センター

大迫力の花火と特設ステージでの
楽しいイベントが盛りだくさん！！

- 小雨決行（雨天時は8月15日に延期）
- 駐車場 / 300台 無料
- 山村広場サッカー場・市役所八雲支所・八雲保育園・八雲幼稚園
- 問い合わせ先 / やくもまつり実行委員会 0852-54-0839



水と火の祭り写真資料ダウンロード

<http://www.hns.gr.jp/download/20150801mizutohinomatsuri.pdf>





2015年9月 日英2ヶ国語対訳 「悠久の河」出版



作 / 村尾 靖子 絵 / クミタ・リュウ 英訳 / ノビ・キーリ

協力 / 小松 昭夫・交易場 修

発行日 / 2015年9月2日

発行所 / 株式会社 今人舎

1988年小松昭夫は人間自然科学研究所の前身「知革塾」を開塾。1993年交易場修氏の周藤彌兵衛翁の小説執筆をきっかけに1999年平和事業構想書『太陽の國IZUMO』を発刊、世界の戦争平和記念館を公式訪問、歴史に学び、未来を拓く研究所の活動が本格化した。

2014年に建立された周藤彌兵衛翁像の案内板には、出雲神話の「和譲」精神を現代に蘇らせ、人類の「終戦」への流れを生み出すために、3人の先人たちの名前が記載されている。

「歴史に盲目的な人間は、現在に対しても盲目である」

リヒャルト・フォン・ワイツゼッカー（1920－2015：ドイツ連邦共和国元大統領）

「理念なき経済は犯罪、経済なき理念は戯言。一家を廃して万家を興す」

二宮尊徳翁（1787－1856：日本の江戸時代の農政家・思想家）

「青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、安易を振り捨てる冒険心。こういう様相を青春と言うのだ。」

サミュエル・ウルマン（1840－1924：アメリカの詩人、実業家、人道主義者）

2015年11月6～8日 全国伝統的工芸品フェスタ in 富山

ウィーンに貸し出していたロレマ氏作ベルタ・フォン・ズットナー2号像を型に富山県高岡市で国産像を制作。国産2号像を全国伝統的工芸品フェスタ in 富山に出品。



2015年11月23日 八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム開催

出雲、沖縄、そして女性初のノーベル平和賞受賞者ベルタ・フォン・ズットナーの像で縁が結ばれ、ヨーロッパから世界平和への潮流を生み出すことを目指して2014年11月の「八雲立つ 出雲から陽が昇る」に引き続きオーストリア・ウィーンからイップ常子氏を招いてシンポジウムを開催。

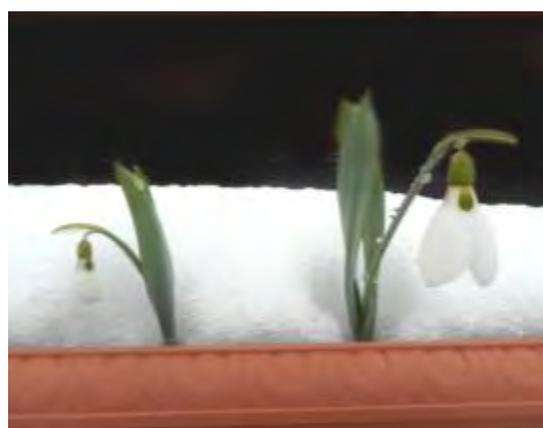
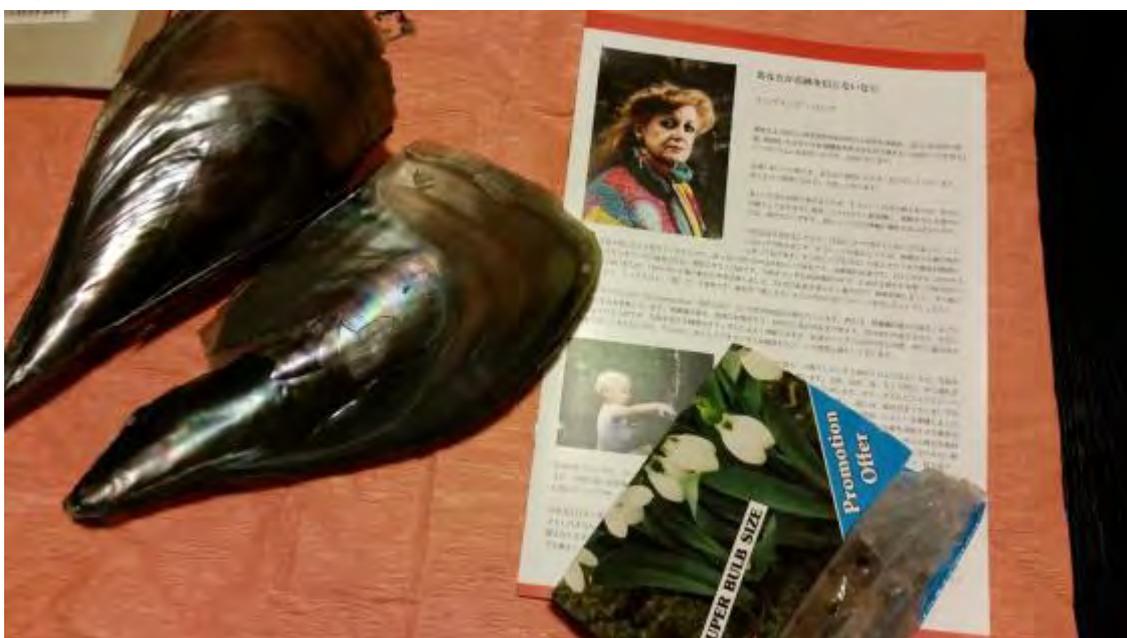


2016年1月 スノードロップ活動

2014年11月23日に開かれたシンポジウム「出雲から陽が昇るシンポジウム2014」のために来日したオランダの芸術家イングリッド・ロレマさんの、「大きな黒い貝殻に入った世界一小さな球根」のプレゼントから始まった「平和の花」プロジェクトが始動。

長い冬に耐え、早春の雪の中に釣鐘形の白い花を咲かせる「春を告げる花」。花言葉は「希望、慰め」。八雲志人館は、ヨーロッパから託された平和への誓いをこめて、全国、世界に広めようと「平和の花スノードロッププロジェクト」に取り組んでいます。

松江市八雲町の意宇川ほとりに建つ、水の偉人・周藤彌兵衛翁像の前に、24個のプランターが並べられている。「平和の花」スノードロップが春に花咲こうと、すくすくと育っている。

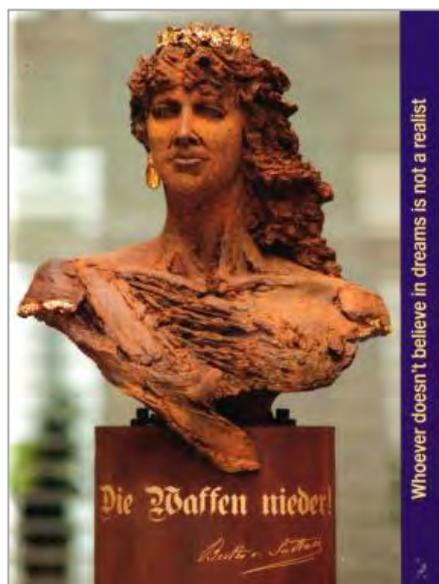


2016年2月 オランダより「岩より水」発行

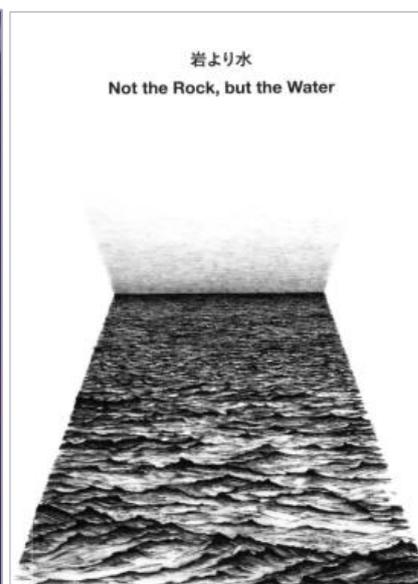
2014年11月23日に開かれたシンポジウム「八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム」開催にあわせオランダのイングリッド・ロレマ氏、マリアンヌ氏が制作した冊子の続編として「岩より水」が日本語・英語・韓国語・中国語・ドイツ語の5カ国語で制作された。中村新一郎島根大名誉教授、韓国の金美正氏、当財団魏理事が翻訳、編集に携わり、これまでヨーロッパでの活動から、イベント等で銅像展示等に関わった写真が紹介されている。



経営理念手帳
(2012年8月制作)



夢を信じない人は、
現実主義者ではない
(2014年11月制作)



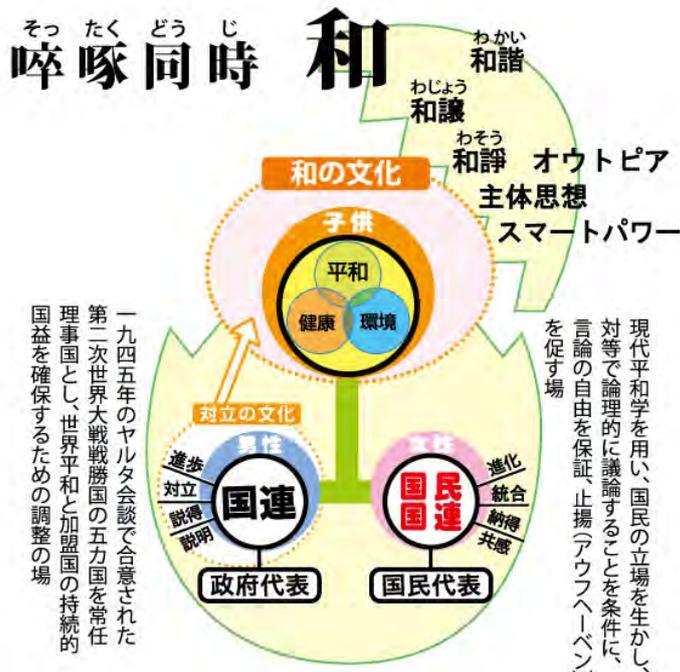
岩より水
(2016年2月制作)

「夢を信じない人は、現実主義者ではない」PDFデータをダウンロード

<http://www.komatsuelec.co.jp/izumo/1123/rollemabook1123.pdf> [PDF 7.6MB]

「岩より水」PDFデータをダウンロード

<http://www.hns.gr.jp/download/20160216iwayorimizu.pdf>



【和議】 神道を代表する言葉は「一霊四魂（幸(さき)魂(みたま) 奇(くし)魂(みたま) 和魂(にぎみまた) 荒(あら)魂(みたま))」です。そのなかの「幸魂、奇魂」（愛情と知恵）は出雲大社の神語です。これから生まれる和魂（縁から生まれる感動）と、聖徳太子の「和をもって貴としとなす」から「和」をとり、大國主命の国譲り、農政家・思想家の二宮尊徳翁の「推譲」からの「譲」を組み合わせ、熊野大社前宮司で出雲大社教の千家達彦管長がおつくりになった造語。

人類の特性と、グローバル化とブロードバンド、核拡散の時代の人間の条件の再定義から考察した、ジョセフ・ナイ ハーバード大学教授らが発表したスマートパワーを契機に、3つのソフトパワー（感情を加味した知恵、使命、会話力）と、2つのハードパワー（集団組織力、道理を実現するための方便）を全体の文脈の中で目的が具現化する力をいう。

「楽しく持続的に生きられる社会をつくる、私がつくる」という言葉から生まれるマズローの5段階説の上位概念である自己超越実現（私益と公益の一致）、さらに荒魂（勇気と行動力）と先端技術が加わり、社会を変える力を「和議」と定義。小松昭夫財団法人人間自然科学研究所理事長が千家管長のご賛同を得て、愛知工業大学 50 周年記念事業の映画「築城せよ！」の完成を機に発表した。

【和諧】 現代中国のスローガン。2001年に江沢民氏が中国共産党創立 80 周年大会で「各国人民と一緒に、永久平和と繁栄する世界を建設するため努力しましょう」と表明したことから始まる。中国共産党はかつての世界革命から和諧世界創造まで、政治理念の歴史的な転換を遂げた。和諧は中国の対外戦略任務となり、紛争地帯に「いくつかの和諧地域」をつくりあげることから恒久平和、共同繁栄する和諧世界を形成するとしている。

【スマートパワー】 ジョセフ・ナイ教授（元国防次官補、米国有数の知日派）らが説く概念で、米国のオバマ政権で用いられるようになった。3つのソフトパワー（感情を加味

した知能、ビジョン、対話力) と、2つのハードパワー(組織力、権謀術数)を「全体の文脈を踏まえて融合する力」を意味する。

【オウトピア】 韓国の趙永植・慶熙大学校学園長が提唱した、21世紀の人類のモデル。英語 **ought to**(当然そうなるべき)と、ユウトピア **UTOPIA**(理想郷)を組み合わせた造語。「人間は何であるか、どんな存在か」「西洋哲人の理想国家論」「東洋思想家の理想社会論」を探求する中から、善義、協同、奉仕をうたうオウトピア論を提唱し、推進団体として世界各国に **GCS**(大協同社会)が生まれた。博士は1981年に国連を通じて「世界平和の日」「平和の年」の設定を満場一致で可決させた。

